

後期セメスタに向けて 対面と遠隔を併用し充実した授業に

後期セメスタまであと一ヶ月となりました。まだ感染拡大が続いていることから、本学でも7月29日に「感染拡大警報」を発令し、現在でも4項目の注意喚起を継続しています。学生の皆さんも、引き続き感染拡大防止に努めて下さい。

さて、各学部とも10月1日から後期セメスタが始まります。本学では対面と遠隔を併用した形で授業を開始します。対面授業にあたっては、対面授業レベル（現在は各キャンパスともレベル2）を定め、感染拡大の状況をみながら徐々に対面授業の機会を増やしていきます。

本学ではウィズコロナの時代に合った「新しい授業形態」の構築に全力で取り組んでいます。

【学生の皆さんへの注意喚起】

- 日常生活での感染症対策を徹底してください。（手指消毒、手洗い、マスク着用、ソーシャルディスタンス、換気等）
- アルバイト先が各自治体等のガイドラインに沿った感染対策を取っているか確認し、**不十分な場でのアルバイトは避けて**ください。
- 対面による**飲み会・食事会等は慎んで**ください。
- 不特定多数の人が集うイベントへの参加は自粛してください。

現在の対面授業レベル：レベル2

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
開講時限	2~5 時限	2~5 時限	3~5 時限	緊急事態宣言が 発令された場合は 登校自粛
登校回数 ／週	3回 まで	2回 まで	2回 まで	
学内での 昼食	可	可	不可	
密接を 伴う演習	可	一部可 (指定規則 上やむを得ない 場合)	不可	

選択科目や再履修等でこの登校回数を超えることもあります。臨地実習時の登校時間等は、実習先との協議によります。

このためLMS（学修管理システム）など遠隔授業環境の整備を進め、苦手な分野を繰り返し学修できるなど遠隔の良い点を活かした授業づくりを進めています。図書館でも、電子媒体による資料を強化して自宅からの学修を応援しています。これにより対面授業で行う演習や実験も更に充実しますので、従来よりも学修効果の高い授業が実現します。

学生の皆さんには、遠隔授業をより活用するための説明動画を9月中旬に配信しますので、ぜひご覧ください。

主体的に教え教わる「フィジカル アセスメント」学演習 看護学研究科 浦中 桂一 講師

看護学研究科高度実践看護コースは実習や演習が非常に多いという特徴があります。が、どのように遠隔授業を進めましたか。

浦中講師：当コースでは、4月中旬にフィジカルアセスメント学演習からオンライン授業が始まりました。例年、解剖生理及び身体診察の手法について院生同士でプレゼンテーションし合って、主体的に教え教わるアクティブラーニングを実施しています。パソコン画面上でしか情報提示できない状況により、例年にもまして内容の精選や発表方法の工夫が進みました。相互に作用する授業になったと思います。

国立病院機構の医師による授業が多いのも、同コースの特徴かと思えます。病院の先生方の授業も、遠隔で実施できましたか。

浦中講師：医師による授業もオンライン対応が順次開講され、グループワークもZOOMのブレイクアウトルーム機能を用いて例年の様に行われました。「議論しながら同時にその内容をまとめ、全員の前で画面共有して説明する」という対面では難しい作業も、スピード感を持って展開されています。黒板の代わりに画面共有のホワイトボード機能が活用されて、活字、音声に留まらない知識の教授が行われています。

遠隔では、新入生同士の交流が行いにくい面がありますが、大学院生は時間が限られています。大学院生は時間制限が厳しく、浦中講師・オリエンテーション以来、院生同士の交流がなく自己紹介もままならない状態でした。そこでクリ



担当教員は浦中講師（最上段の左から2人目）と早坂助教（下から2段目の右端）

ティカルNP特論にて全員の自己紹介を行い、フィジカルアセスメント学演習の授業にさきがけ、高度実践看護コース十一期生と担当教員でZOOM上での記念撮影を行いました。院生にとって以降に続く授業や今後苦楽を共にする同期との交流を図る機会となり、良い記念となりました。

感染拡大はまだ続きそうです。今後の授業はどのように計画されていますか。

浦中講師：授業形式、教授方法によつてはオンライン授業の方が効率的・効果的であると思います。対面授業、オンライン授業は鳥の双翼、車の両輪のごとくバランスよく選択され、院生の学修効果の向上を図っていく必要があると思います。

（写真：フィジカルアセスメント学演習にさきがけ11期生全員で記念撮影） ※同意を得て掲載